

虫垂切除後に虫垂憩室を伴った虫垂 adenocarcinoid と診断し 追加切除を要した 1 例

山下 兼史¹⁾³⁾, 保坂 征司¹⁾, 大久保正一¹⁾,
高橋 宏幸¹⁾, 稲田 一雄¹⁾, 川元 俊二¹⁾,
吉田 尊久²⁾, 山下 裕一³⁾

¹⁾ 福岡徳洲会病院外科

²⁾ 福岡徳洲会病院病理

³⁾ 福岡大学医学部消化器外科

要旨：症例は 61 歳男性，右下腹部痛と発熱を主訴に近医受診し，急性虫垂炎の疑いで当科紹介となった．腹部 US で虫垂の腫大と虫垂憩室を認めたため，急性虫垂炎の診断で虫垂切除術を施行した．手術所見では腫大した虫垂を認め，その先端が後腹膜に強く癒着していた．術後の病理組織検査では虫垂憩室を伴う adenocarcinoid であり，一部に切除断端陽性と診断された．追加切除の為，初回手術 27 日後に 2 群郭清を伴う回盲部切除術を施行した．組織学的に腫瘍の遺残はなくリンパ節転移も認めなかった．術後 18 ヶ月の現在，再発なく外来にて経過観察中である．adenocarcinoid は大半が虫垂に存在し，カルチノイド類似像と腺癌類似像を共有し，通常のカルチノイドとは異なり生物学的悪性度が高く予後不良といわれている比較的稀な腫瘍である．今回我々は，極めて稀な虫垂憩室を伴った虫垂 adenocarcinoid の 1 例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する．

キーワード：adenocarcinoid, 虫垂カルチノイド, 虫垂憩室, 虫垂腫瘍